

2024年11月9日（土）

老球の細道838号

### 高校の部活動にも危機感が！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先日新聞のスポーツ欄を読んでいたら『高校野球を高校の外で』という記事が掲載されていた。東京にある少年野球のクラブチームが「U-19」のカテゴリーを設けるということだった。2020年に発足したこのクラブチームは当初 U-15 カテゴリーで活動していたのだが、今年度になって U-18 カテゴリーの設立を要望する声が多くなり、参加希望者を募ったところ高校生22名が加入してきたという。

加入動機は、通う高校に野球部がない、通う高校の野球部の雰囲気や指導者の指導方針が合わないので部活に入らないで野球をやりたいなどである。練習は毎週土、日曜日の半日行っている。クラブの指導者もすそ野の野球人口を増やす意味でも、部活動以外の受け皿として多様なニーズを認めている。問題点は公式戦がなかったり、高校野球部との練習試合は高野連の許可が必要だということである。

近年バスケットボールにおいても Bリーグのプロチームに U-18 のユースチームができたり、一部のクラブチームに U-18 カテゴリーができたりしている。これらのチームは独自に全国大会などを開催しているが、サッカーのようなメジャーな大会にはなっていない。いつか高校のウインターカップにも参加するような時代が来るのだろうか。

ところで、中学校が少子化や教員の働き方改革で部活動がここ数年以内に廃止されようとしている。このために U-15 のクラブチームが地域にたくさん誕生している。会津地区においても部活動に所属しないでクラブチームに加入する生徒が増加しているような気がする。この波がいずれ高校にも押し寄せて来るのではないだろうか。

現在の会津地区高校女子のバスケット部員は50名位だそうである。チーム数も5チームしかない。地区のミニバス女子チームは少子化といえども毎年13～15チーム位を推移していたのだが、中学、高校になるにつれ驚くべき減少である。東京五輪で日本代表女子が銀メダルを取ったことで競技人口が増加する淡い期待を抱いたが米国大統領選挙結果と同じく期待外れだった。部活動でもクラブでもいい。競技人口の減少に歯止めが必要。

日本のスポーツ文化の象徴である「部活動」が消滅しつつある。バスケットに限定すれば、高校の部活動は全国からタレントをリクルートし、留学生を擁する一部の私立高校の戦いになり、地元の普通の高校生が通う公立高校とはレベルの差が大きくなりすぎて、その結果、公立高校でも意欲的にバスケットを継続する生徒達を減少させているのではないだろうか。

バスケット指導のすべての努力は、選手たちを「バスケットボールを好きにさせること」に捧げる。そのうえで、試合に勝つだけでなく、人生における成功者に育て上げる。勝利を目指し、試合を楽しむ。そして勝つことがすべてではなく、勝利を目指して努力することがすべてであることを教える。人生において大切なことはすべてバスケットで学べる。